

## 英語教員の目標 - 英検準 1 級以上の取得は、

# 中学 1 割、高校 2 割に留まる！

ネイティブスピーカーによる英語授業は、中学 2 割、高校 1 割。共に週 30 分程度

旺文社 教育情報センター

16 年 5 月

文部科学省は先ごろ、「英語教育改善実施状況調査」の結果をまとめ、中央教育審議会等に報告した。

同省が 15 年 3 月に打ち出した『『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』で示した各目標の達成状況について、各都道府県・指定都市教育委員会及び管下の公立中学・高校を対象に 16 年 2 月に調査。行動計画の目標の一つである英語教員の英検準 1 級以上取得については、中学が 10.96%、高校が 19.60%に留まっていることなどがわかった。

### 教育委員会関係

< 英語の授業以外で英語を使う取組み状況 >

全 47 都道府県及び指定都市において、英語の授業以外で生徒に英語を使わせる取組み(教育委員会主催)では、英語クラブが 30 団体(50.00% ; 複数回答、以下同)に設置されているほか、国際交流活動 17 団体(28.33% )、スピーチコンテスト 15 団体(20.00%)などだった。

対 象	外国語サロ	スピーチコンテスト	サマキャンプ	国際交流活動	英語クラブ
全都道府県・指定都市	2 (3.33%)	15 (25.00%)	12 (20.00%)	17 (28.33%)	30 (50.00%)

< 高校入試における音声によるコミュニケーション能力を重視した出題状況 >

高校入試でリスニングテストを実施しているのは 47 都道府県すべて(実施率 100.00%)で、英語で質問、英語で答えさせる口頭試問や面接は 14 団体(同、29.78%)だった。

対 象	リスニングテストの実施	英問英答による口頭試問・面接の実施
全都道府県	47(100.00%)	14(29.78%)

< 高校入試における外部検定試験結果の活用状況 >

高校入試に英検など、外部の検定試験結果を活用しているのは 47 都道府県中、推薦入試で 19 団体(実施率 40.42%)、一般入試で 13 団体(同、27.65%)だった。

対 象	推薦入試で活用	一般入試で活用
全都道府県	19(40.42%)	13(27.65%)

**中学校・高等学校関係**

**< 英語教員の英語力の実態 >**

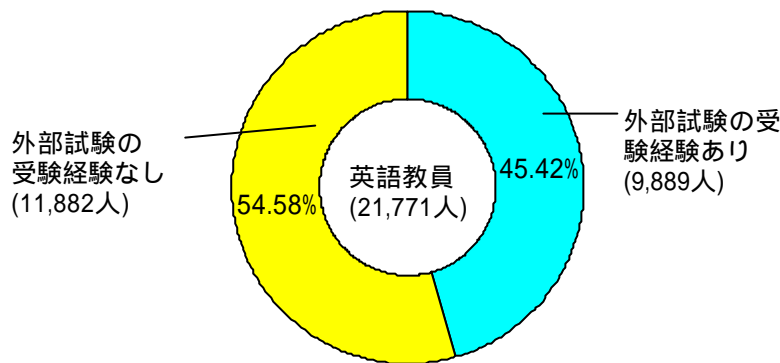
先の『『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』(以下、「行動計画」と略)では、中学・高校の英語教員の備えておくべき英語力の目標値を、「英検準 1 級、TOEFL 550 点、TOEIC 730 点程度以上」と設定している。

今回の調査で明らかになった、中学及び高校の英語教員の英語力の実態は次のとおり。

**中学教員 (38 都道府県・7 指定都市 ; 調査対象教員数 = 21,771 人)**

外部試験の受験経験 英語の外部試験の受験経験がある教員は 2 万 1,771 人中、9,889 人 (受験率 45.42%) で、半数に達していない。

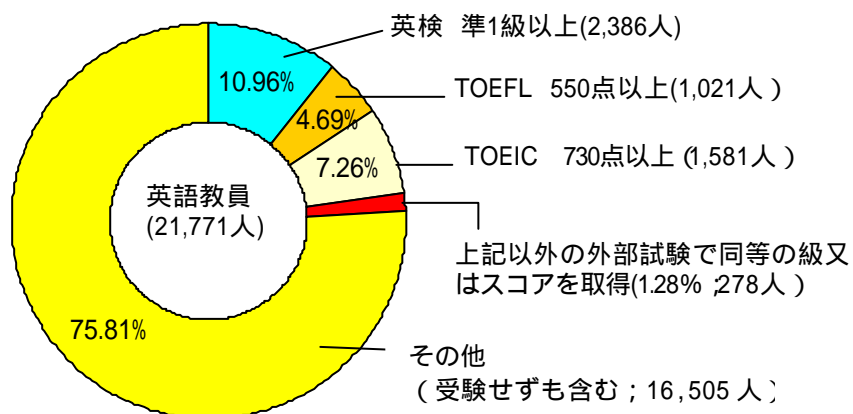
中学英語教員の外部試験受験の有無



教員の検定試験等の取得状況 英検準 1 級以上 = 2,386 人 (取得率 10.96%)、TOEFL 550 点以上 = 1,021 人 (同、4.69%)、TOEIC 730 点以上 1,581 人 (同、7.26%)、それら以外の外部試験で同等の級又はスコアを取得 = 278 人 (同、1.28%) となっている。

なお、1 人で何種類もの資格をもつ教員もいるが、1 人 1 種類の資格しか持たないと仮定して、上記の教員数を合計すると 5,266 人となり、「行動計画」の目標に達している英語教員の割合は 24.19% で、目標達成は 4 人に 1 人だ。

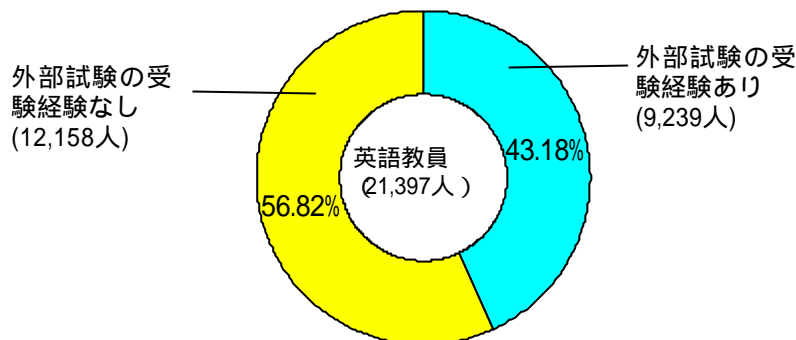
中学英語教員の能力判定・検定試験取得状況



高校教員（39 都道府県・7 指定都市；調査対象教員数 = 21,397 人）

外部試験の受験経験 英語の外部試験の受験経験がある教員は2万1,397人中、9,239人（受験率 43.18%）で、中学教員より 2.24 ポイント下回っている。

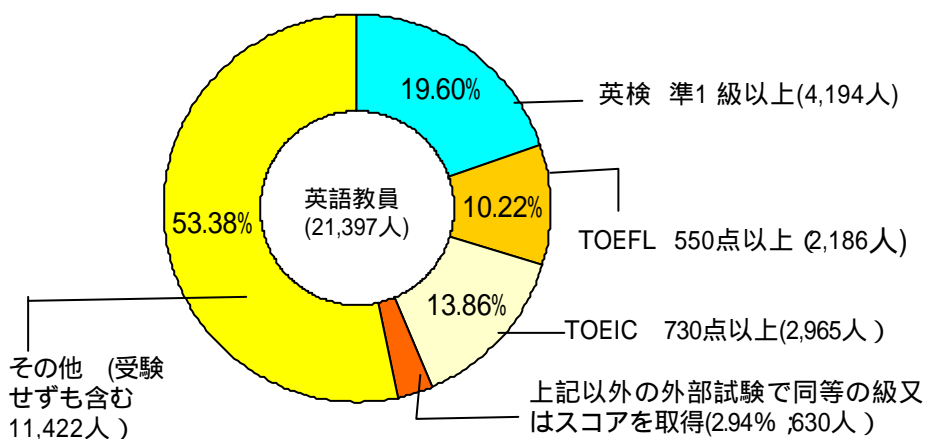
高校英語教員の外部試験受験の有無



教員の検定試験等の取得状況 英検準1級以上 = 4,194人（取得率 19.60%）、TOEFL550点以上 = 2,186人（同、10.22%）、TOEIC730点以上 2,965人（同、13.86%）それら以外の外部試験で同等の級又はスコアを取得 = 630人（同、2.94%）となっている。

なお、中学同様、1人1種類の資格しか持たないと仮定して、上記の教員数を合計すると9,975人となり、「行動計画」の目標に達している英語教員の割合は46.62%となる。この達成率は中学の約2倍に当たるが、目標に達しているのは7人に3人程度だ。

高校英語教員の能力判定・検定試験取得状況



<ネイティブスピーカーの指導、英語に堪能な地域人材の活用の実態>

「行動計画」では、中学・高校の英語の授業に週 1 回以上は外国人が参加することや、一定以上の英語力を持つ地域人材の英語教育への活用を目標に掲げている。

今回の調査で、ネイティブスピーカーが指導に関わっている授業時数は、中学で約 2 割、高校(各学科合計)で約 1 割であることがわかった。一方、地域人材の活用は、中学・高校とも 1%にも満たず、低調だ。

中学英語 - ネイティブスピーカー、地域人材の活用実態

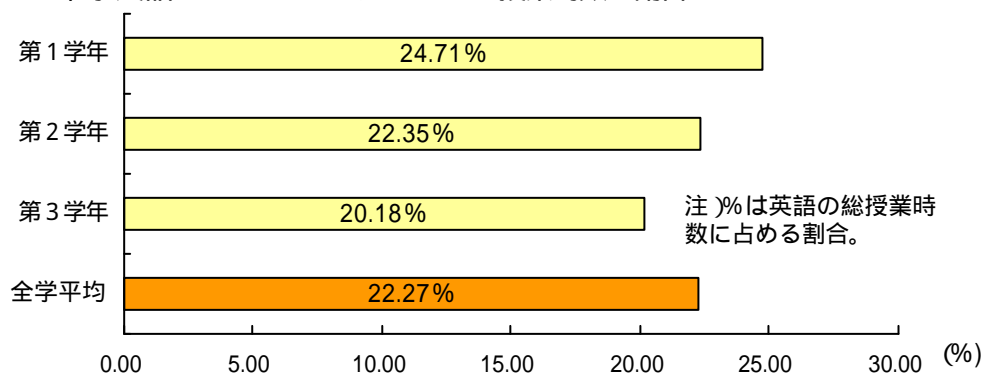
ネイティブスピーカーの活用は、学年が進むとともに減少しており、3 年間の合計で見ると、英語の総授業時数の 22.27%となっている。年間の総授業週を 35 週とすると、調査対象校の週当たりの総授業時数(3 年間の平均)は 3 万 8,298 単位時間となり、このうちネイティブスピーカーが関わっている授業時数は 8,529 単位時間 / 週である。

調査した校数が明らかにされていないため、ネイティブスピーカーが 1 校当たりどの位の時間関わっているのかわからない。しかし、中学英語の年間標準授業時数は 105 単位時間であるから、英語の授業を週当たり 3 単位時間(コマ)、1 単位時間 50 分とすると、ネイティブスピーカーの活用は、3(コマ)×50(分)×22.27(%) 約 33 分で、週当たり 30 分程度だ。

以下は、今回調査した中学校における、ネイティブスピーカー及び英語に堪能な地域人材活用の実態である。

区 分	総授業時数	総授業時数のうち、ネイティブスピーカーが指導に関わっている授業時数(A)	総授業時数のうち、地域人材が指導に関わっている授業時数(B)	合 計 (A + B)
第 1 学年	1,213,274	299,768 (24.71%)	9,800 (0.81%)	309,568 (25.52%)
第 2 学年	1,342,457	299,994 (22.35%)	7,952 (0.59%)	307,946 (22.94%)
第 3 学年	1,465,610	295,805 (20.18%)	7,602 (0.52%)	303,407 (20.70%)
合 計	4,021,341	895,567 (22.27%)	25,354 (0.63%)	920,921 (22.90%)

中学英語 ネイティブスピーカーの授業時数の割合



### 高校英語 - ネイティブスピーカー、地域人材の活用実態

高校においても中学と同様、ネイティブスピーカーの活用は学年が進むとともに減少している。これは、入試対策に重きがおかれた授業が学年進行とともに進展しているためとみられる。受験英語にシフトせざるを得ない、英語学習の実態がうかがえる。しかし、18年からのセンター試験リスニングテスト導入を機に、今後はネイティブスピーカーの活用の拡大も十分考えられる。

また、学科によってもネイティブスピーカーの活用のし方にバラツキがみられる。活用の割合が高い順に、国際関係学科（3年間の総授業時数に占める活用の割合 24.86%）、総合学科（同、16.27%）、専門学科（同、14.32%）、普通科（同、10.35%）となっており、各学科合計では英語の総授業時数の13.08%で、中学より9.19ポイント下回っている。

調査対象となった全学科合計(6,948学科)の3年間の英語の総授業時数は339万791単位時間であるから、1学科当たりの年間総授業時数は163単位時間となる。年間の総授業週を35週とすると、英語の授業は週当たり4~5単位時間(コマ)となる。1単位時間を50分とすると、ネイティブスピーカーが関わる授業は、週当たり26分~33分となり、中学とほぼ同程度だ。

以下は、各学科のネイティブスピーカー及び英語に堪能な地域人材活用の実態である。

#### 国際関係(語学を含む)のコースを持つ学科の活用実態(学科数412)

区 分	総授業時数	総授業時数のうち、ネイティブスピーカーが指導に関わっている授業時数(A)	総授業時数のうち、地域人材が指導に関わっている授業時数(B)	合 計 (A+B)
第1学年	91,188	26,668 (29.25%)	748 (0.82%)	27,416 (30.07%)
第2学年	114,917	28,737 (25.01%)	822 (0.72%)	29,559 (25.72%)
第3学年	127,197	27,469 (21.60%)	269 (0.21%)	27,738 (21.81%)
合 計	333,302	82,874 (24.86%)	1,839 (0.55%)	84,713 (25.42%)

注) ( )は、総授業時数に占める割合。以下同じ。

#### 普通科の活用実態(学科数2,916)

区 分	総授業時数	総授業時数のうち、ネイティブスピーカーが指導に関わっている授業時数(A)	総授業時数のうち、地域人材が指導に関わっている授業時数(B)	合 計 (A+B)
第1学年	618,254	104,918 (16.97%)	1,641 (0.27%)	106,559 (17.24%)
第2学年	638,517	61,212 (9.59%)	947 (0.15%)	62,159 (9.73%)
第3学年	741,571	40,712 (5.49%)	726 (0.10%)	41,438 (5.59%)
合 計	1,998,342	206,842 (10.35%)	3,314 (0.17%)	210,156 (10.52%)

専門学科の活用実態（学科数 3,436）

区分	総授業時数	総授業時数のうち、ネイティブスピーカーが指導に関わっている授業時数(A)	総授業時数のうち、地域人材が指導に関わっている授業時数(B)	合計 (A+B)
第1学年	324,037	53,301 (16.45%)	976 (0.30%)	54,277 (16.75%)
第2学年	314,478	43,220 (13.74%)	605 (0.19%)	43,825 (13.94%)
第3学年	313,130	39,710 (12.68%)	868 (0.28%)	40,578 (12.96%)
合計	951,645	136,231 (14.32%)	2,449 (0.73%)	138,680 (14.57%)

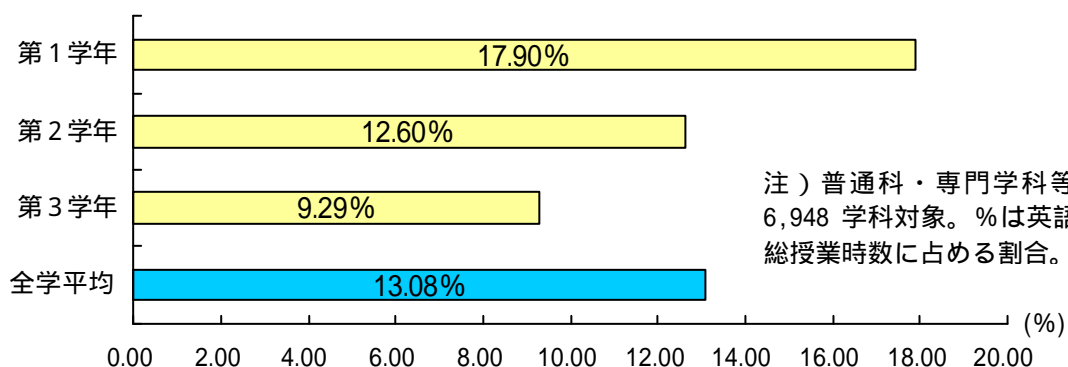
総合学科の活用実態（学科数 184）

区分	総授業時数	総授業時数のうち、ネイティブスピーカーが指導に関わっている授業時数(A)	総授業時数のうち、地域人材が指導に関わっている授業時数(B)	合計 (A+B)
第1学年	34,189	6,253 (18.29%)	81 (0.24%)	6,334 (18.53%)
第2学年	37,315	6,041 (16.19%)	206 (0.55%)	6,247 (16.74%)
第3学年	35,998	5,194 (14.43%)	233 (0.65%)	5,427 (15.08%)
合計	107,502	17,488 (16.27%)	520 (0.48%)	18,008 (16.75%)

高校合計の活用実態（学科数 6,948）

区分	総授業時数	総授業時数のうち、ネイティブスピーカーが指導に関わっている授業時数(A)	総授業時数のうち、地域人材が指導に関わっている授業時数(B)	合計 (A+B)
第1学年	1,067,668	191,140 (17.90%)	3,446 (0.32%)	194,586 (18.23%)
第2学年	1,105,227	139,210 (12.60%)	2,580 (0.23%)	141,790 (12.83%)
第3学年	1,217,896	113,085 (9.29%)	2,096 (0.17%)	115,181 (9.46%)
合計	3,390,791	443,435 (13.08%)	8,122 (0.24%)	451,557 (13.32%)

高校英語 ネイティブスピーカーの授業時数の割合



注) 普通科・専門学科等、6,948 学科対象。%は英語の総授業時数に占める割合。

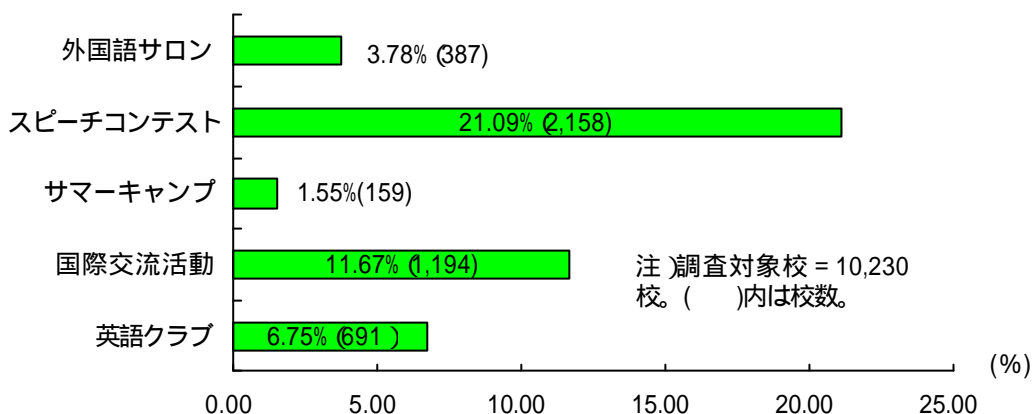
< 英語の授業以外で英語を使う取組み(学校主催)の状況 >

「行動計画」では、正規の授業以外でも英語を使う機会を設け(学校主催)、英語学習へのモチベーションの高揚を図る取組みを推進している。

中学 - 英語の授業以外で英語を使う取組み(学校主催)の状況

中学では 21.09%の学校でスピーチコンテストが実施されたほか、国際交流活動(実施率 11.67%)や英語クラブ(設置率 6.75%)などの取組みがなされた。

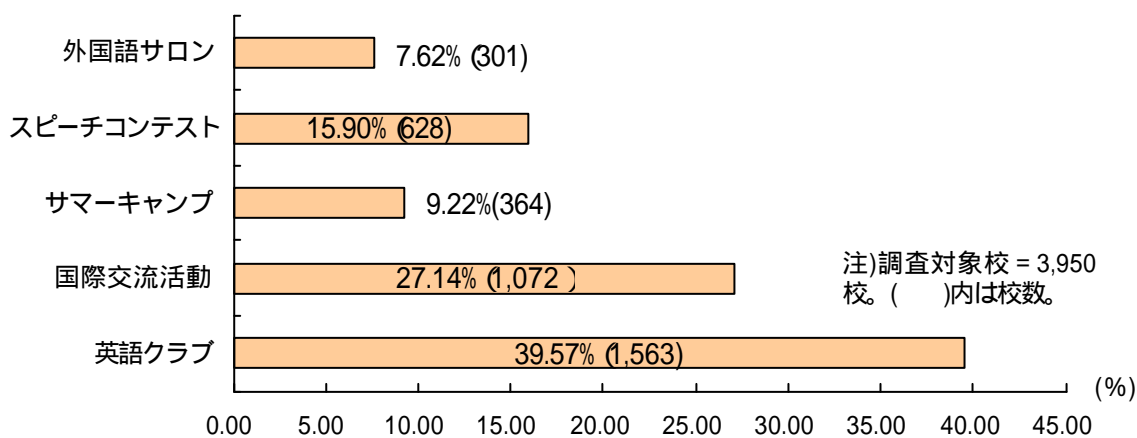
中学英語 授業以外での英語の取組み状況(学校主催)



高校 - 英語の授業以外で英語を使う取組み(学校主催)の状況

高校(調査対象校全体。定時制のみ設置校を除く)では 39.57%の学校で英語クラブが設置されているほか、国際交流活動(実施率 27.14%)やスピーチコンテスト(同 15.90%)などの取組みがなされた。

高校英語 授業以外での英語の取組み状況(学校主催)



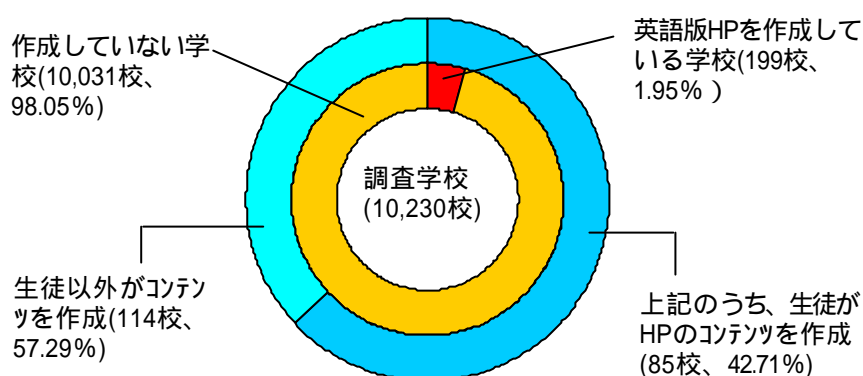
< 英語による情報発信の状況 >

「行動計画」では、国際交流推進の一環として、英語版学校紹介ホームページ作成を促進している。

中学 - 英語版HP作成状況

中学では 1.95%の学校が英語版ホームページをもち、そのうちの 42.71%は生徒がコンテンツを作成している。

中学 英語による情報発信の状況



高校 - 英語版HP作成状況

高校(調査対象校全体。定時制のみ設置校を除く)では 3.16%の学校が英語版ホームページをもち、そのうちの 69.60%は生徒がコンテンツを作成している。

高校 英語による情報発信の状況

